

## 特集 最先端の病害虫防除の取り組み

### 最先端の病害虫防除の取り組み

病害虫部では、農林水産ビジョン2025の施策項目「環境創造型農業の拡大」を支える技術開発を行っている。今回は、匂い（<sup>かく</sup>交信攪乱によりチョウ目害虫）や視覚（紫外光（UV-B）によりハダニ類、色彩トラップによりアザミウマ等微小害虫）による害虫抑制、耕種的対策（耐病性品種及び輪

作作物）による土壌伝染性ウイルス病抑制などの最先端の技術を紹介し、化学合成農薬のみに頼らない技術の普及を展望する。

神頭 武嗣（病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2447）

### 新剤型<sup>かく</sup>交信攪乱剤の設置と防除効果

性フェロモン剤による交信攪乱は、環境にやさしい防除方法として知られているが、設置には多くの労力が必要である。そこで、最近開発された新剤型のロープ剤により、従来剤と変わらない高い効果の確認と、設置と回収に要する時間の大幅な短縮を実証した。

#### 内容

試験は2016年9月～12月に、県内のアブラナ科野菜圃場（約12ha）で行い、ロープ剤2400mを設置した。作業に要した人員、時間等を計測し、2004～2006年に同地域で旧剤型（同一成分を含む<sup>は</sup>ディスペンサー剤）設置時と比較した。また、防除効果はコナガとオオタバコガについて圃場におけるフェロモントラップを用いた誘引数から誘引阻害率を算出した。

その結果、表1のとおり設置時にはD剤で30分／人かかったのに対してR剤で15分／人と半分に、回収時にはD剤で45分／人に対してR剤で15分／人と3分の1にそれぞれ大幅に減少した。

また、いずれの剤型もフェロモントラップによる誘引阻害率は95%以上と高く、R剤はD剤と同等の効果が認められた（表2）。

#### 今後の方針

今後は他の交信攪乱剤についても設置に要する労力負担を軽減できるよう、このようなロープ剤への剤型変更が期待される。

二井 清友（企画調整・経営支援部）  
（前病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2408）



写真1 ロープ剤



写真2 ディスペンサー剤

表1 各剤との作業労力の比較（10a当たり、1名作業）

作業内容等	ディスペンサー剤	ロープ剤
資材量	100 本	20 m
設置時（支柱準備）	12分	—
（圃場展開）	18分	15分
回収時	45分	15分

表2 フェロモントラップによる各剤型の誘引阻害率(%)

対象害虫	ディスペンサー剤	ロープ剤
オオタバコガ	95.6	97.0
コナガ	99.0	97.8